

令和2年度

環境科学セミナー

無料

最近の環境問題についての話題と
放射線に関する研究成果を
ご紹介します。



内容

第一部 基調講演

「気象予報士が語る!これからどうなる?! ～気象・環境・エネルギー問題～」

元NHKキャスター 気象予報士
気象環境研究所主任研究員

村山 貢 司 氏

Murayama Kouji 1949年、東京都出身

東京教育大学卒業後、日本気象協会に入社。1996年に気象予報士を取得し2003年より現職。1987年から2007年までの間、「NHKニュースおはよう日本」や「NHK週間ニュース」などの主要なニュース番組のキャスターを歴任。気象、生気象、地球環境が専門分野であり、特に花粉症や熱中症の専門家として著名。東京都花粉症対策検討委員会委員、環境省熱中症委員会委員、花粉学会評議員等を務める。



第二部 成果報告(青森県委託調査)

- 放射性物質は土壌に蓄積されるのか?～放射性炭素やトリチウムの土壌中への移行～
- 色と形から分かる放射線の影響～染色体の変化から分かったこと～

公益財団法人 環境科学技術研究所

日時

令和2年

10月30日(金)

13時30分～16時30分 (開場13時)

会場

アートホテル弘前シティ プレミアムルーム

青森県弘前市大町1丁目1-2 (JR弘前駅中央口を出て左正面)

TEL 0172-37-0700

お申し込み方法

参加をご希望の方は、裏面のはがきに住所、氏名等を記入して郵送またはFAXでお送りください。電子メール、ホームページからのお申し込みも可能です。

TEL.0175-71-1240 FAX.0175-72-3690

〒039-3212 上北郡六ヶ所村尾駸家ノ前 1-7

ホームページ <http://www.ies.or.jp/>

電子メール kanken@ies.or.jp

環境科学技術研究所 企画・広報課

主催：青森県

FAX 送信の場合 0175-72-3690 へ

・本はがきで収集した個人情報、本報告会の運営に関する当研究所からのご連絡やご案内にのみ利用いたします。

(キリトリ線)

郵便はがき

0393290



差出有効期間
令和2年10月29日
(切手不要)

上北郡六ヶ所村
尾駁家ノ前一番七

公益財団法人
環境科学技術研究所
総務部 企画・広報課 行

成果報告会 (弘前会場)

お名前	フリガナ	参加人数	人
ご住所	〒		
電話番号	()		

ご要望、ご意見をお寄せください。



(郵便はがき)

● 排出放射性物質影響調査 (青森県委託事業) の成果の紹介 ●

土地の利用形態により、放射性物質の分布が変わる!?

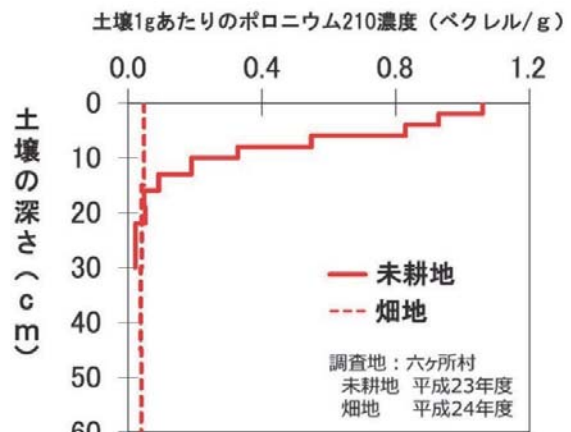
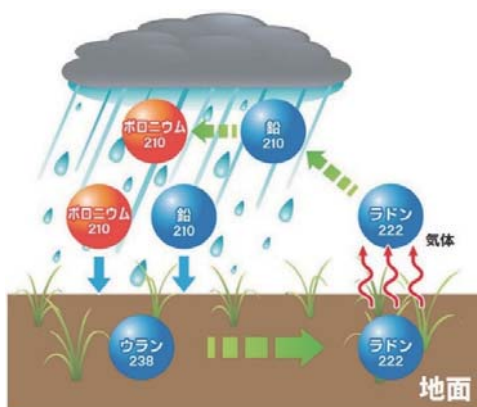
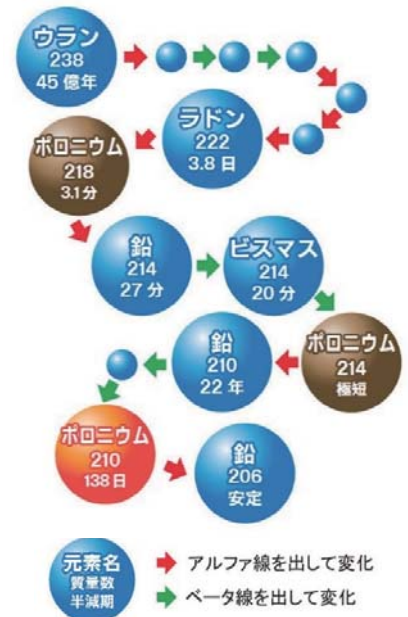
天然放射性物質「ポロニウム210」の青森県内での土壌中濃度を調べました

ポロニウム210は環境中の様々な場所に存在します。日本人の自然放射線による年間被ばく線量約2.1ミリシーベルトのうち1/3に相当する約0.7ミリシーベルトを占める重要な放射性物質であるため、環境中の分布調査を行いました。

その結果、未耕地（手を付けられていない土地）では表層の濃度が高く、深くなるほど濃度が低くなること、一方、畑地では深さに関係なく均一であることが分かり、その土地の利用形態により土壌中の分布が異なることが分かりました（下右図）。

これは、ポロニウム210が、土壌中だけではなく降雨等により大気中からも供給されるためです。ポロニウム210はウラン238から段階的に変化する過程の中でできる元素で、その途中にラドン222があります（右図）。希ガスであるラドン222はその一部が大気中に放出され、鉛210及びポロニウム210に変化し、雨などと一緒に落下し地面表層に沈着します（下左図）。

このため、ポロニウム210は未耕地では表層の濃度が高く、畑地では耕されて混ぜられている影響で均一になると考えられます。



調査の成果等はホームページ (<http://www.aomori-hb.jp/>) に掲載されています。是非ご覧ください。